



2021年12月期 決算補足説明資料

2022年2月3日

2021年12月期 連結業績



単位: 百万円

	2020	2021	増減	増減率
売上高	16,859	20,354	+3,495	+20.7%
営業利益	2,185	2,709	+523	+24.0%
当期純利益	1,343	1,773	+430	+32.0%

ヨウ素及び天然ガス事業

- 新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けた一部用途向けヨウ素の需要回復、販売先における修繕実施の影響が前期よりも小さかったことにより、ヨウ素製品販売数量は前期を上回る
- ヨウ素国際市況が堅調に推移

金属化合物事業

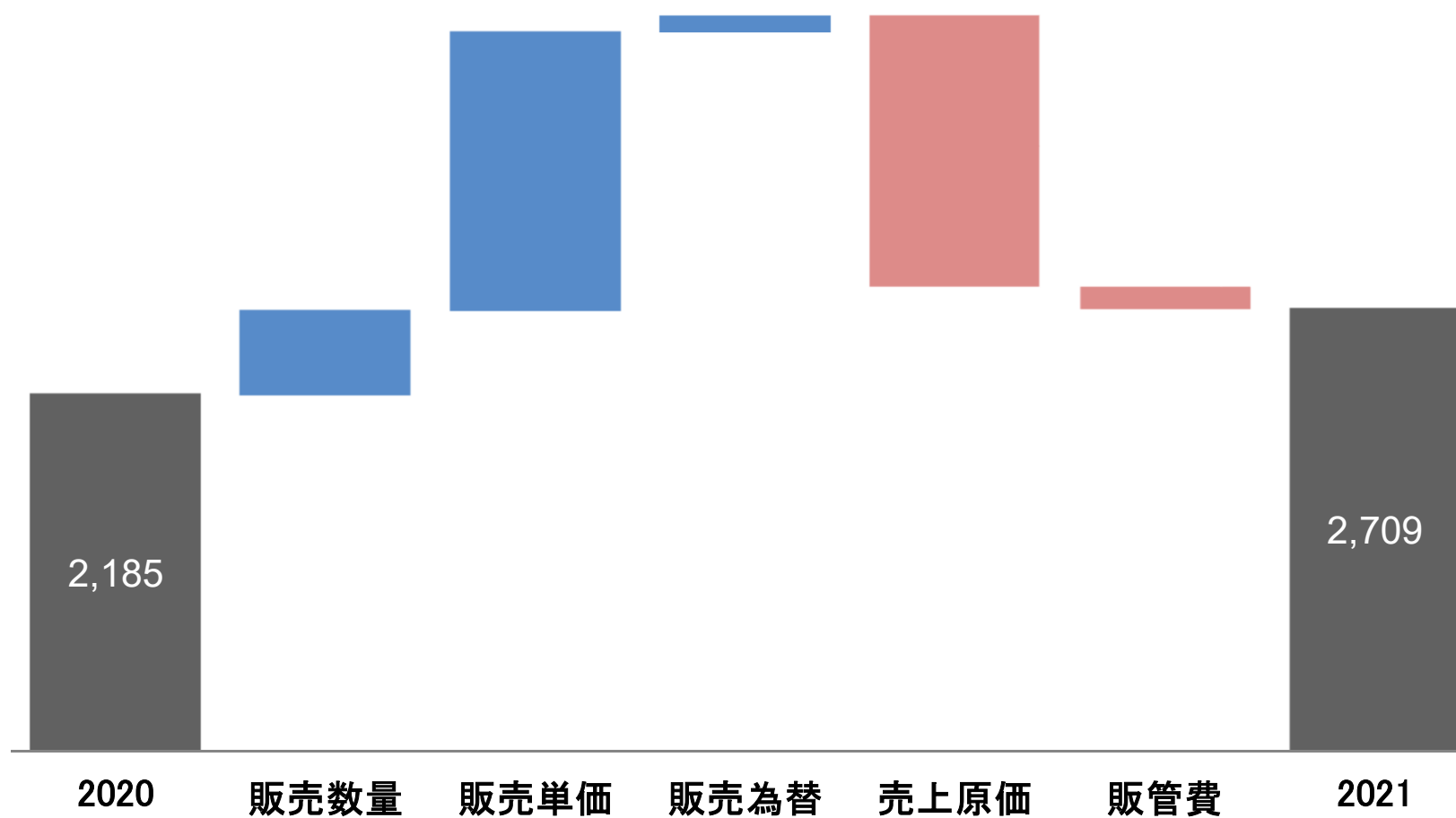
- 塩化ニッケルの販売数量が堅調に推移
- 金属相場が上昇

営業利益 増減要因分析



営業利益 前年対比 +523百万円

単位:百万円



2022年12月期 業績予想



単位:百万円

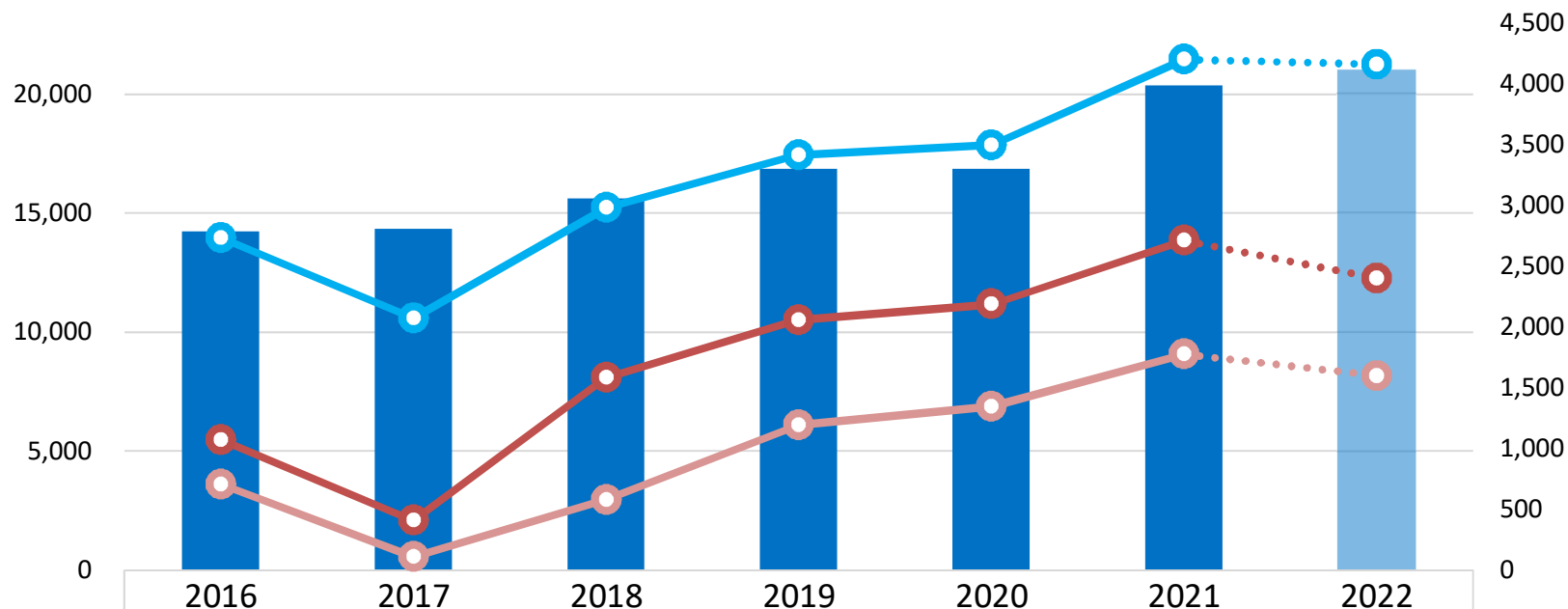
	2021	2022	増減	増減率
売上高	20,354	21,000	+645	+3.2%
営業利益	2,709	2,400	▲309	▲11.4%
当期純利益	1,773	1,600	▲174	▲9.8%

- 各事業とも需要は堅調に推移
- ヨウ素国際市況は引き続き堅調に推移
- 新規坑井開発、維持更新等の投資による減価償却費の増加、物流コスト含む原燃材料の価格上昇等により減益

業績推移



単位：百万円



	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
■ 売上高	14,219	14,348	15,615	16,854	16,859	20,354	21,000
● 営業利益	1,071	406	1,580	2,057	2,186	2,709	2,400
● 当期純利益	705	109	578	1,191	1,344	1,774	1,600
● EBITDA	2,732	2,072	2,979	3,413	3,496	4,199	4,160
減価償却費	1,661	1,666	1,399	1,356	1,310	1,489	1,760
設備投資	1,267	1,028	1,991	2,066	2,528	3,231	2,600
営業利益率	7.5%	2.8%	10.1%	12.2%	13.0%	13.3%	11.4%
ROE	2.9%	0.5%	2.4%	4.9%	5.4%	6.7%	5.8%
JPY/USD	108.8	112.2	110.4	121.1	106.8	109.9	115.0

ヨウ素及び天然ガス事業

ヨウ素

- 新型コロナウイルス感染拡大による需要減少は、短期的な影響にとどまり、中長期的には、世界の間層人口の増加、新興国を中心とした経済成長等により、医療用途を中心に安定的な成長を見込む。

天然ガス

- 天然ガスは化石燃料の中では比較的温室効果ガスの排出が少なく、貴重な国産エネルギー資源として重要な役割を果たすことから、当面は堅調な需要を見込む。

金属化合物事業

- 積層セラミックキャパシタ(MLCC)向けの需要は、電動化、自動運転化等により車載用、通信用等が中長期的に大きく拡大。

対処すべき課題 1/2



ヨウ素及び天然ガス事業

➤ 設備保全を最優先

既存設備の維持・更新を積極的に実施し、防災体制を強化。安定操業を継続し、お客様への安定的な供給責任を果たす。

➤ 新規坑井の開発を継続

既存坑井の生産減退を補うとともに供給能力の拡大を目指す。

➤ 限られた天然資源の有効活用

常に最善の製造プロセスを目指し高効率化を図るとともにリサイクルの向上に努め、投資に伴う製造コストの上昇の圧縮を図る。

➤ カーボンネットゼロ社会実現への貢献

製造プロセスの高効率化の取り組みにおいて、省エネルギー化へ一段と注力する。



ヨウ素生産設備:ブローイングアウト塔

金属化合物事業

- MLCC向け需要の拡大に的確にタイミングを合わせ、生産体制を強化する。
- お客様と連携し一層のコストダウンを図る。

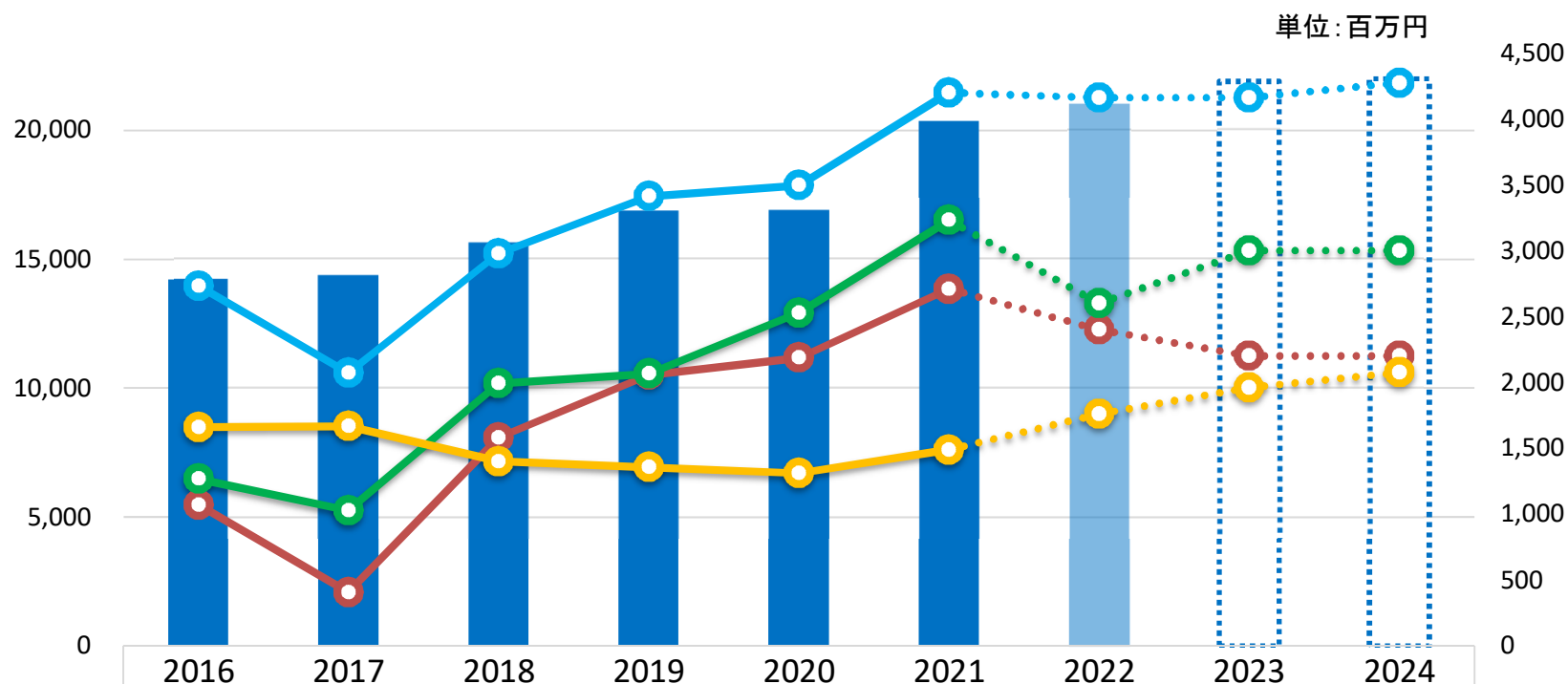


MLCC向け製品: 塩化ニッケル

研究開発

- 当社の販売は特定用途の需要に依存するところが大きく、中長期的に安定成長が見込まれるものの、大幅な技術革新により需要が大きく変化することも考えられる。そのため、新商品開発及び新規事業の創出が急務。
- 社内の資源を活用するだけでなく、外部研究機関と積極的に提携し開発、創出のスピードを上げる。

今後3年間の業績イメージ



	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
■ 売上高	14,219	14,348	15,615	16,854	16,859	20,354	21,000		
● 営業利益	1,071	406	1,580	2,057	2,186	2,709	2,400		
○ EBITDA	2,732	2,072	2,979	3,413	3,496	4,199	4,160		
● 設備投資	1,267	1,028	1,991	2,066	2,528	3,231	2,600		
○ 減価償却費	1,661	1,666	1,399	1,356	1,310	1,489	1,760		
営業利益率	7.5%	2.8%	10.1%	12.2%	13.0%	13.3%	11.4%		
ROE	2.9%	0.5%	2.4%	4.9%	5.4%	6.7%	5.3%		

2016年～2021年：実績、2022年：業績予想、2023年～2024年：業績イメージ

経営環境及び取り組むべき課題

- コンスタントな需要増加に支えられ、事業全体の市場規模は年々拡大。
- 新規坑井開発、送水・送ガス配管の新設・更新等の設備投資に、引き続き積極的に資金を投じる。
- 製品ポートフォリオの最適化、コストの適切な管理を実行。

2021年度までの経営目標は達成

- ✓ 営業利益率：10%以上 ⇒ 達成(2021年実績13.3%)
- ✓ ROE：6%以上 ⇒ 達成(2021年実績6.7%)

2022年度以降の経営目標

- 2022年度以降の経営目標については、積極的な設備投資が継続する状況も踏まえ、今後の取締役会で議論を行う。
- 継続的かつ確実な取り組みを通じ安定的に成長を図り、株主皆様のご期待にお応えする。

将来予測に関するご注意事項



本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。